

2024

Annual Report

年次報告書



誰もが互いに支え合い みんなで子育て



ビジョン

子どもも大人も誰かが互いに支え合い
みんなで子育てすることで
子どもがすこやかに育つ社会

… 込められた想い …

- ・ 子どもも大人も誰かが互いに支え合い

親も子も、子育てパートナーも事務局員も、行政や施設の職員も、子どものいる人もいない人も、誰かがみな誰かに支えられて生きているということ。

- ・ みんなで子育てすることで

この世に生まれてきた子どもは、親だけでなく社会の全員参加で育てるのだということ。

- ・ 子どもがすこやかに育つ社会

全員参加の支え合いの中で、子どもが心身健康に成長できる社会であるということ。

ビジョン実現のための行動指針

ミッション

子育てが大変になっているご家庭へ
バディチームは

子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ
あなたがあなたらしく生きられるように
その歩みを支えます。

… 込められた想い …

- ・ 子育てが大変になっているご家庭へ

バディチームは誰のために活動するのか？子どものためだけではなく、親のためだけでもない、その両方を含んだ「家庭」のために行動するのだということ。

そしてそれはいわゆる「養育困難家庭」だけではなく、さまざまな背景や事情を抱えた家庭であるということ。

- ・ 子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ

子どもも親も、安心し、笑顔で、がんばりすぎず、未来に希望を感じてほしいということ。

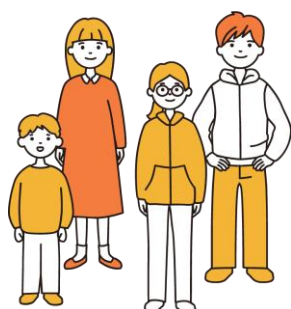
- ・ あなたがあなたらしく生きられるように

子どもは子どもの、親は親の、自ら選んだあり方で自分らしく生きてほしいということ。

- ・ その歩みを支えます

「正しい」道へ導くのではなく、ただその場に寄り添うだけでもなく、子どもが、親が、自分のペースで前に進んでいけるように、ともに歩むということ。

ビジョン・ミッション	2
ごあいさつ	4
2024年度のバディチーム	5
行政との協働による事業	6
困難な状況にある家庭への訪問支援事業	6
食の支援事業	7
里親家庭支援事業 / トワイライトステイ事業	8
スタッフによるふりかえり part.1	9
自主または民間機関との連携による事業	10
子育て家庭に対する訪問型養育支援の強化（3年目）	10
里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化	11
アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業	12
家庭訪問型の子どもの自立支援	13
居場所型との連携による家庭訪問型食支援等の協働実践	13
個人利用家庭への訪問支援	13
スタッフによるふりかえり part.2	14
講演等による普及啓発活動	15
ご寄付・ご支援いただいたみなさま	17
会計報告	19
沿革	20
団体概要 / 事業内容	21



2024年度も本当にありがとうございました。

今年度、バディチームはこれまでの「訪問型支援」の活動に加えて、はじめて「居場所づくり」にも取り組み始めました。

場所探しから始まり、試行錯誤を重ねながら少しずつかたちにして、小さな一歩を踏み出すことができました。

訪問型支援で出会った親子を対象に、訪問で築いてきた信頼関係を活かして、少人数で、丁寧に1人1人に寄り添うかたちを大切にしてきました。子どもも親も安心して過ごす場所と時間を、これからも1つ1つ増やしていきたいと思っています。

また創業当初より自治体から受託してきた「養育支援訪問事業」は、2024年4月より国の新たな制度「子育て世帯訪問支援事業」へと移行しました。バディチームはそのモデル事業者の一つとして、講演会などの機会もいただきながら、現場での経験や実践を広く共有することができた1年でした。

そして、こうした制度の対象にはならない課題、いわゆる「制度の狭間」にある家庭に対しても、数年前からフードバンクやこども食堂、学習支援団体などの民間機関と連携して訪問型支援を始めてきましたが、さらに民間連携から公的支援につなげる対応も行いながら、地域の力とともに進めることができました。

さらに2025年2月には、バディチームは認定を取得し「認定NPO法人」となりました。

これまでも日々現場で活躍する子育てパートナーのみなさんの尽力によって積み重ねられてきた信頼と実績に加えて、組織の運営体制そのものが評価されたことを、嬉しく、そして身の引き締まる思いで受け止めています。

社会の中には、まだまだ支援の届かない声があります。

今できることを1つずつ丁寧に、そして必要なことには挑戦を続けながら、「**みんなで子育てする社会**」、親も子も支える人たちも、それぞれが自分らしく歩み続けられる社会を目指して進んでまいります。

どうぞ変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



認定NPO法人バディチーム
理事長 岡田妙子

支援実績合計

338家庭／11,084時間

(前年 329家庭／9,970時間)

▶ 行政との協働による事業

支援
実績

302家庭／10,068時間

(前年 305家庭／9,327時間)



都内14の自治体から委託を受けて、さまざまな事情や背景を抱えた家庭に対する訪問型の支援を行いました。児童福祉法の改正を受けて「養育支援訪問事業」が「子育て世帯訪問支援事業」に移行する初年度となった他、トワイライトステイ事業も開始しました。

→ 詳しくはp6-8

▶ 自主または民間機関との連携による事業

支援
実績

36家庭／1,016時間

(前年 24家庭／643時間)



行政による公的支援が届かない、あるいは不足している家庭に対しては、民間機関と連携して支援を行っています。3つの民間助成金や寄付金を活用し、そうした「制度の狭間」の家庭に対する支援を実施した他、小さな居場所「ばうむ」の運営や、支援従事者むけのオンラインイベントによる学び合いの場づくりにも取り組みました。

→ 詳しくはp10-13

▶ 講演等による普及啓発活動

支援者や関係機関の集まる大会や、企業の交流会などさまざまな場に代表・岡田をお招きいただき、お話をさせていただきました。また、里親制度の普及啓発としての街頭活動などにも取り組みました。

→ 詳しくはp15-16



認定NPO法人化



2025年2月18日付で、バディチームは「認定NPO法人」として所轄庁である東京都から認定を受けました。

より客観的な基準において高い公益性をもっていることが認められ、活動を応援してくださっているみなさまへ「税制優遇」の形でお返しできることとなりました。感謝するとともに、今後も活動に一層精進してまいります。

困難な状況にある家庭への訪問支援事業

支援実績

217家庭／6,733時間

(前年 185家庭／5,895時間)

対象家庭 親の心身の不調や産後うつ、子どもの病気や障がい、ひとり親、経済的困窮、など

支援内容 掃除、調理、子どもの送迎、遊び相手、学習支援、相談相手、沐浴介助、など

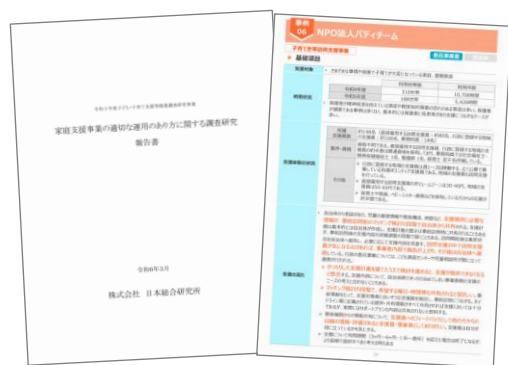
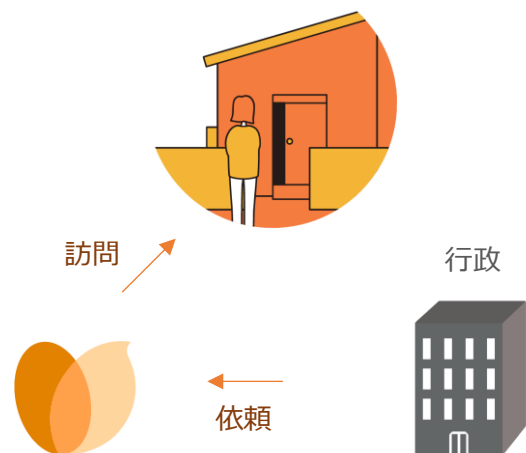
▶ 子育て世帯訪問支援事業（養育支援訪問事業）

活動地域 足立区・荒川区・大田区・葛飾区・北区・新宿区
世田谷区・中央区・練馬区・文京区・目黒区・港区

国や自治体の虐待予防対策の一環として位置づけられ、バディチームの活動の最初期から取り組んできた「養育支援訪問事業（育児・家事援助）」は、2024年4月から「子育て世帯訪問支援事業」へ移行しました。2024年度は都内12区から受託して実施しています。

支援が必要となる家庭の抱える事情は、親の心身の不調や産後うつ、子どもの病気や障がい、ひとり親世帯、経済的困窮など、さまざまです。保健師などの家庭訪問や乳幼児健診、または保育所・幼稚園・学校でのようすなど、関係機関からの情報提供によって把握され、行政からの依頼により支援が始まります。

訪問する現場支援者は必ずしも資格を持った専門職ではありませんが、具体的なお手伝い（家事・保育・送迎など）を通じて、子育ての負担を軽減しつつ、親や子どもと信頼関係を築き、家庭の孤立を防ぎます。



「子育て世帯訪問支援事業」の制度設計の過程においては、「類似事業の実施実績が比較的豊富にある事業者」として国の調査の対象に選定されました。そのヒアリングの結果も公開されています。

令和5年度 こども・子育て支援等推進調査研究事業
「家庭支援事業の適切な運用のあり方に関する調査研究報告書」
(株式会社日本総合研究所)

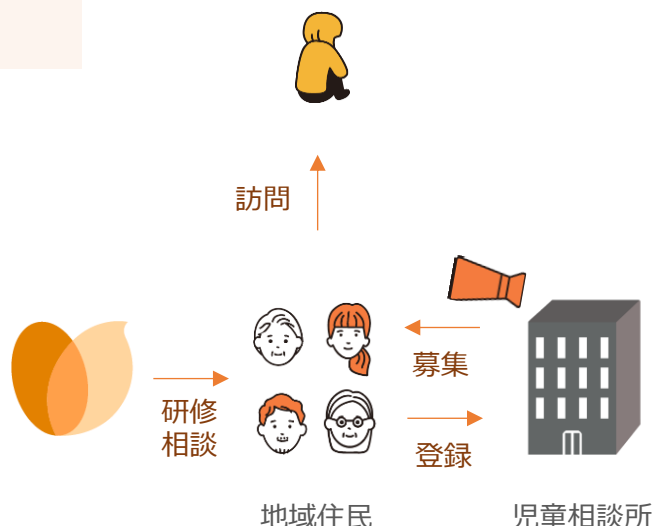
▶ 子どもと家庭のおとなりさん事業

活動地域 江戸川区

江戸川区においては、児童相談所と連携し、さまざまな困難を抱える家庭に対して支援を行う「子どもと家庭のおとなりさん事業」を受託実施しています。

沐浴の補助や離乳食調理、子どもとの遊び、学習の見守り、掃除、洗濯など、対象となるお子さんの年齢も支援内容也多岐にわたり、家庭の抱える事情や背景も実に多様です。

現場の最前線に立つ支援員は、区の呼びかけに応じて集まった20代～70代の地域住民の方々です。必ずしも資格や経験があるわけではありませんが、事務局のコーディネーターが丁寧に伴走しながら、いっしょに親子を支えています。



食の支援事業

支援
実績

52家庭／2,897時間

(前年 45家庭／2,615時間)

対象家庭 多子世帯、ひとり親、外国籍、病気、障がい、子どもの偏食、など

支援内容 買い物・調理

▶ 食事支援ボランティア派遣事業（おうち食堂）

活動地域 江戸川区

▶ 食の支援サポーター派遣事業（おうちDEぽかぽかクッキング）

活動地域 世田谷区



「食」は、子どもが成長する上で必要不可欠な大切なもの。子ども食堂の取組みが広がっていますが、そうした場所に出かけいくことも難しい家庭があります。そんな家庭に向けてバディチームでは、支援者が家庭を訪問し食事を作る支援を江戸川区と世田谷区で受託実施しています。

実際に訪問してみると「食」に課題があると思われた家庭に、その他の様々な困難が複雑に絡み合っていることがわかります。家庭の中だけでは解決の糸口が見えないことを、行政と連携し、新たな支援へつなぐ役割も果たしています。調理を担当するのは、同じ地域に住む20代～70代の子育て支援に理解と熱意のある方たちです。自治体の呼びかけにより、100名を超える方が集まっています。必ずしも資格や経験があるわけではありませんが、事務局のコーディネーターが丁寧に伴走しながら、いっしょに親子を支えています。

利用家庭の声



子:16才

「自分の家で、自分のお皿で温かいご飯が食べられて幸せと思った」



保護者

「頼れる人がいない中、子どもたちがおいしそうに食べている姿を見られて本当に嬉しかった」

支援員さんの声

活動
していて
よかった

「徐々に打ち解けて、悩みや、他愛のない会話ができるようになった」

「空っぽだった冷蔵庫の中身が増えてきた」



江戸川区で受託実施する「おうち食堂」事業では、毎年メニュー集を発行しています。

支援員のみなさんが、旬の野菜を使ったり、巻いたり、揚げたり、カットしたり…、子どもたちが食に関心を持つように様々な工夫を凝らして作ってくれた、愛情と知恵の詰まったレシピ集です。

里親家庭支援事業

支援
実績

32家庭／438時間

(前年 75家庭／817時間)

対象家庭 里親家庭

支援内容 子どもの送迎、遊び相手、掃除、調理、など

▶ 東京都里親支援機関事業（育児家事援助者派遣）

活動地域 児童相談センター・北児童相談所・足立児童相談所 管轄地域（7区）

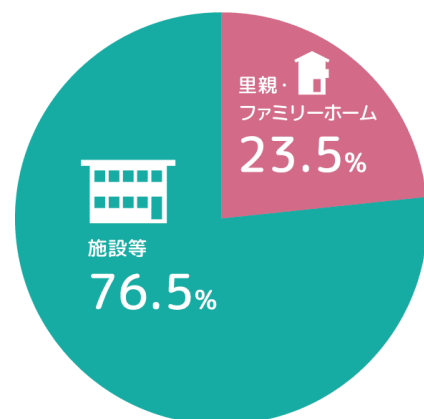
▶ 里親支援のための育児家事援助者派遣事業

活動地域 世田谷区

▶ さとおや・おたすけ事業

活動地域 江戸川区

里親等委託率（R4年度末）



虐待やさまざまな事情により生みの親のもとを離れて暮らす「社会的養護」の子どもたちは全国に約42,000人。このうち里親家庭・ファミリーホームに委託されているのは約2割にとどまっており(R4年度末)、国際比較で日本は大きく後れを取っています。

「施設養育」から「家庭養育」への流れを推進するために国は数値目標を掲げて里親を増やすことを都道府県に求めています。しかし、「里親を増やす」と同時に、「里親を支える」ことが必要であるという立場から、バディチームでは里親家庭に対して訪問型の支援を行っています。2024年度は東京都および2区からの受託事業を実施しました。東京都における担当地域の減少に伴い委託事業の実績は減少傾向ですが、民間助成金を活用した「制度の狭間」への支援の強化と併せて、非専門職の地域住民も参加した形で里親子を地域で支える取り組みがもっと広がるよう、活動を続けていきます。

トワイライトステイ事業

活動地域 新宿区

支援実績 1家庭／6回



経済的困窮、病気や障害、心身の不調など、さまざまな事情をもつ要支援家庭においては、子ども食堂など不特定多数の人が集まる場所を利用することに難しさを抱える家庭も多くあります。2024年6月、そうした家庭に対して、マンツーマンあるいは少人数で過ごす「小さな居場所」で親子に寄り添う支援を開始しました。新宿区からトワイライトステイ事業を受託し、地域の「協力家庭」として夕方～夜の時間帯にお子さんをお預かりして、いっしょに夕食を食べたり、遊んだり、安心して過ごせる居場所づくりを行っています。1年目は手探りで小規模な実施となりましたが、人も場所もゆっくりと成長していけるよう、活動を続けていきます。

小さな居場所「ばうむ」

トワイライトステイ事業は、小さな居場所拠点「ばうむ」で実施しています。その名前にはドイツ語のbaum（樹木）と「場所を生む（場生む）」の2つの意味があります。子どもも大人も少しずつ、年輪を重ねる樹木のように育っていく。ここはそんな人たちの居場所でありたい。「ばうむ」にはそんな願いが込められています。

今年度もたくさんの親子に出会いました。

すべて大切な時間であったことはもちろんですが、中でもとくに印象に残った支援をふりかえります。



どんな家庭？ 母／子2人（幼児）
：母は精神疾患あり

支援内容は？ 家族3人分の夕食づくり

どんな変化がありましたか？

栄養のある食事をみんなで食べることができ、家族の笑顔が増えました。子どもたちが取り合いになるほど人気のメニューも。母も「この日は訪問があると思うと気持ちが楽になる、心の余裕が違っし、子どもにも優しくなれる」と話してくれました。

印象に残った理由は？

母が子育てパートナーを信頼して何でも安心して話している様子や、子育てパートナーが日ごろの悩みを聞いたり世間話をしたりと、母に寄り添いながら丁寧に関わっている様子が見られ、母が涙ぐみながら「ごはんがありがたい、子どもたちが笑顔になった」と話す様子を見て、この活動の意味と意義を感じることができました。



どんな家庭？ 母／子（小学生）
：母はひとり親になった直後でフルタイム勤務を始めたばかり／子は発達特性あり

支援内容は？ 母と一緒に掃除・片付け
作り置き調理
子の勉強の促しや見守り

どんな変化がありましたか？

「忙しくて時間がない」が母の口癖でした。母より年上の子育てパートナーが訪問し、傾聴に徹する支援を行いました。訪問を続ける中で子育てパートナーに少し頼りすぎてしまう局面もありましたが、最終的には母が自身で探した小児精神科につながり、子どもも通い始めることができました。

印象に残った理由は？

傾聴によっていろいろな問題が見え、**傾聴の大切さ**を感じられました。受け止める子育てパートナーも1人で抱えずに事務局と共有し、事務局も子育てパートナーの不安な部分を取り除くように努めました。また支援の終了時期が決まっていることによって、母自身が行動を起こすことの後押しができたことも印象に残りました。



どんな家庭？ 父／子（中学生）／子（小学生）
：母が病気で急逝／2人の子と父の関係に課題あり

支援内容は？ 父の不在時、子と一緒に
調理・掃除・片付けを行う

どんな変化がありましたか？

末子は不登校状態が続いていましたが、フリースクールに通い始めて友人もでき、理解ある職員に囲まれて徐々に変化の兆しを感じられます。長子が進学を機に下宿生活を始め、父のストレスも軽減されたようで、父と子の穏やかな関わりが増えました。

印象に残った理由は？

子育てパートナーが2人の子に寄り添い、とくに末子は低学年の頃から生きづらさを抱え、さらに母の死後には息も絶え絶えのようでしたが、**息を吹き返しているか**のような印象を受けました。

子育て家庭に対する訪問型養育支援の強化（3年目）

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

助成機関 公益財団法人日本財団

事業期間 2024年4月～2025年3月

事業概要

既存の支援や制度につながっていない「制度の狭間」にある家庭に支援を届けることを目的に、民間団体と連携した訪問型支援を実施する事業の最終年度となりました。

▶ 他団体・多職種による情報共有・事例等検討会

3回／3団体

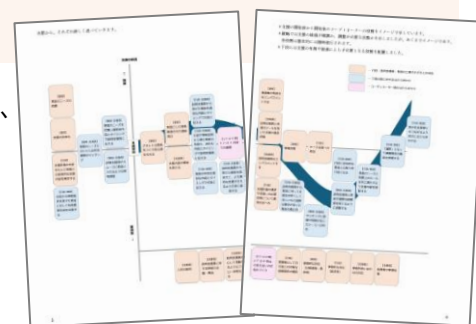
▶ 家庭訪問型養育支援の実施と継続のための整備

支援の実施 10家庭／344時間

コーディネーターガイドライン草案の作成

フードバンクや特別支援教育機関など複数の民間機関と継続的な連携体制を構築し、母子家庭、保護者の疲弊、病気や障害、子どもの発達特性などの背景のある家庭に対して支援を実施しました。

また、訪問型支援の要となるコーディネーターについてガイドライン草案を作成しました。支援の質・量の拡充のため、他団体との学び合いや、国・自治体への提言活動に活用していきます。



▲コーディネーターガイドライン草案（一部）

▶ 関連団体とのネットワークの拡充

連絡会 9回／8機関

▶ 最終報告会の開催と報告レポートの配布

参加 100名

ネットワーク拡充のための連絡会においては、地方の取組事例について実践者を招いて情報交換を行いました。

最終報告会となったオンラインイベントには全国の官民の支援従事者100名に参加いただき、官・民・地域住民の協働によって訪問型支援を行う重要性和可能性について、発信を行いました。



▲最終報告会 告知用チラシ

2025年3月8日

「官・民・地域住民の協働による家庭訪問型支援の多様性と可能性
～ 制度の上でも、制度の狭間でも、子どもと親を支えるために～」



出演者

(左上) 川松 亮 : 明星大学人文学部福祉実践学科 教授

(右上) 森田 圭子 : 認定NPO法人ホームスタート・ジャパン 代表理事

(左下) 寺出 壽美子 : NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会 理事長

(右下) 岡田 妙子 : 認定NPO法人バディチーム 理事長



◀ 最終報告会の
アーカイブ動画はこちら

里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

助成機関 公益財団法人日本財団 事業期間 2024年4月～2025年3月
事業概要

既存の里親家庭むけの訪問型支援制度において支援の受けられない、または支援の不足している家庭を対象に、関係機関と連携して支援を行いました。また、児童館・おでかけひろば・保育園等にて、里親子に対する具体的な対応や心構えをテーマにした出張講座を、フォスタリング機関等と協働で実施しました。地域住民も参画して里親子を支える制度が充実化し、里親子が「当たり前」に受け入れられる社会を目指します。

▶ 里親家庭に対する訪問型支援

9家庭／462.5時間

正式委託前の「長期外泊」期間中の共働き里親家庭における保育ニーズが高く、制度化が急がれる状況が明らかになった他、中高生の里子の自立支援も、家庭に第三者が入ることの意義が感じられました。

▶ 保育・教育・子育て支援従事者むけ出張講座

開催 4回／受講 44名



▼受講者の声：

- ・特別扱いはいしなくてもいいんだよということを知ることが出来たのでよかった。
- ・書類に子と保護者が別姓のケースがあるが「里親」という考えはなかったので、その可能性について知ることができた。
- ・妊娠→出産→子育てが当たり前と思って話していましたが、そうでない家庭や親子もいる可能性があるということを頭に入れておくことも大切なんだなと感じました。

▶ 中間報告会の開催と報告レポートの配布

参加 66名

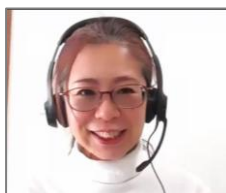
熊本の里親支援センター、また里親当事者をゲストに招いて情報交換を行いました。自治体間の格差や、共働き里親への支援について、全国の支援従事者と課題を共有しました。

2024年12月21日
「里親子を社会で支えるためのトーク&ミーティング
～社会的養護への地域住民の参画を考える～」



ゲスト

- (左上) 八谷 斉：認定NPO法人優里の会 副理事長
(右上) 中村 恭子：くまもと里親Fikaちょこっと 事務局
(下) アキコ：東京都の里親（仮名）



◀ 中間報告会の
アーカイブ動画はこちら



▲バディチームの里親家庭支援の
取組みがまとまった特設サイト
もオープンしました！

<https://buddy-team.com/fostercare/>



アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業



助成機関 こどもの未来応援基金（独立行政法人福祉医療機構）

事業期間 2024年4月～2025年3月

事業概要

経済的困窮、病気や障害、心身の不調など、さまざまな事情をもつ要支援家庭においては、子ども食堂など不特定多数の人が集まる場所を利用することに難しさを抱える家庭も多くあります。そうした家庭に対して、訪問型支援で築いた信頼関係のもと、マンツーマンあるいは少人数で過ごす「小さな居場所」で親子に寄り添う支援を実施します。

居場所支援の実施

3家庭 / 6名

居場所拠点「ぼうむ」にて、マンツーマンや少人数対応で支援を行いました。モデル事業の初年度として、小規模に慎重に進めましたが、利用者アンケートからも取組みの意義が確認されました。



▲子どもたちが安心して過ごしています



◀食事やおやつを子どもたちと
いっしょに作ることも

中間報告会の開催と報告レポートの配布

参加 66名

児童養護施設や乳児院ではない民間団体が担う「非施設型ショートステイ／トワイライトステイ」をテーマに据えて発信を行いました。

先行する2つの実践団体をゲストに招いて、取組事例について全国の支援従事者と情報交換を行いました。

開催後に複数の参加者から視察の申入れを受けるなど、業界内でも関心の高い領域であることが明らかになりました。



▲中間報告会 告知用チラシ

2025年1月29日

「小さな居場所で親子を支えるためのトーク&ミーティング
～非施設型ショートステイ／トワイライトステイの可能性～」

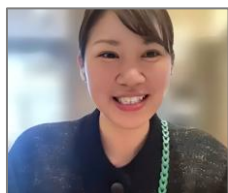


ゲスト

(左上) 上田 馨一：一般社団法人 merry attic 代表理事

(右上) 海老瀬 優：メリーアティックボンド 主任

(下) 藤田 琴子：一般社団法人 青草の原 代表理事



◀ 中間報告会の
アーカイブ動画はこちら

家庭訪問型の子どもの自立支援

助成機関 公益財団法人CBGMこども財団

事業期間 2025年1月～2025年9月

事業概要

さまざまな事情のある要支援家庭で長く生活し、いわゆる一般的な家庭生活について経験値が不足している子どもたちは、自立にむけて困難を抱えることが多くあります。親を頼れない子どもや、児童養護施設と比べて自立に向けた支援の少ない里親家庭で育つ子どもを対象に、訪問型の支援を実施します。

民間の居場所事業や学習支援団体と連携して家庭を訪問し、子どもと一緒に居室の掃除や片付け、買い物、調理など、子どもの希望や意見にもとづいた支援を行います。



事業経過 事業期間の最初期である1～3月は関連団体と連絡会を実施し、連携構築にむけて情報交換を行う準備期間となりました。

居場所型との連携による家庭訪問型食支援等の協働実践

助成機関 公益財団法人東京都福祉保健財団

事業期間 2025年1月～2027年3月

事業概要

こども食堂の数は全国で1万を超え、フードバンクや宅食なども含め、「食」を通じた子どもや親の支援が広がっています。しかし一方で運営団体むけの調査によれば、資金や人材の不足の次に挙げられている課題は、「必要な人に支援を届ける」こととなっています。

そこで、こども食堂など居場所型の活動を行う団体と連携して家庭を訪問し、食事づくりを軸に、必要な支援を行います。

現場研修などを通して協働することにより、家庭訪問型の食支援の実践が広がることをめざします。



事業経過 事業期間の最初期である1～3月は関連団体と連絡会を実施し、連携構築にむけて情報交換を行う準備期間となりました。

個人利用家庭への訪問支援

活動地域 東京都内

支援実績 14家庭／209.5時間（前年 13家庭／308時間）

おもに行政の委託事業の支援機関終了後に、さらにサポートを希望する一部の家庭に対して支援を実施しています。

同じ現場支援者が長期間、継続して訪問しています。



今年度もたくさんの親子に出会いました。

すべて大切な時間であったことはもちろんですが、中でもとくに印象に残った支援をふりかえります。



どんな家庭？ 祖母／父／母／子2人（小学生）
：母は精神疾患あり／祖母が家事・育児を担う

支援内容は？ 家族全員分の食事作り

どんな変化がありましたか？

子育てパートナーの作った料理を家族みんなが喜び、笑顔を見せていましたが、支援期間中に母が精神不調により入院となりました。状況が悪化したように感じられましたが、母が入院している間に、子どもたちが成長して母を心配できる強さを身につけ、父も母に寄り添う気持ちができ、家族みんなで母を見守ることができるようになりました。

印象に残った理由は？

「週に1回、お料理を作ってもらえて美味しいご飯で元気になる」と、母が嬉しそうに話していたことが印象に残りました。支援期間中にいろいろな状況の変化を乗り越え、最終的に家族がよい方向へ進んでいけるようになりました。子どもたちの成長と、家庭のもっていた強さゆえとは思いましたが、支援最後の日に、祖母は「たくさんの人が支えてくれたからこそまでこれた」と話してくれました。



どんな家庭？ 父／母／子（小学生）／子（幼児）
：母は精神疾患あり／父が家事育児を担う／
長子は発達特性あり

支援内容は？ 2人の子の迎え・夕食の見守り・
入浴の促し・就寝の準備

どんな変化がありましたか？

開始当初は長子から暴言が多く出ていましたが、それを受け止めることで、言動が徐々に変わっていききました。末子はたくさん抱っこやおんぶをしてあげ、甘えていいんだということを感じられるようになった後は、言葉で尋ねたり、自分で考えることが増えていきました。子どもたちの感情の起伏が落ち着いたことで、母も穏やかな面が増え、父も徐々に物腰が柔らかくなっていききました。

印象に残った理由は？

「普通」の生活の営みが難しくなっている家庭に直接関わり、「今日はどうだった？」「宿題は？」「明日の準備した？」「へへ、すごいね」という**何気ない言動行動を粘り強く行う**ことで、半年の間に子どもが人の優しさにふれ人との関わり方を覚え、発する言葉が変わっていったことにとても驚きました。



どんな家庭？ 父／母／子（小学生）／子（幼児）
：母は精神疾患あり

支援内容は？ 掃除、水回りの片付け

どんな変化がありましたか？

支援開始時は居室や台所に物があふれていましたが、子育てパートナーがグッズなど工夫をしながら父や母と一緒に片付けを行い、床の掃除も行いました。子どもたちも維持を頑張ってくれ、数ヶ月という短い支援期間で室内が清潔になりました。「おかげさまで少しずつ生活を立て直していけるようになりました。」という言葉もいただきました。

印象に残った理由は？

支援開始時から多くの支援者が相談・助言を行い、父が家庭のことを考え、動き出すのを支えたという印象のご家庭でした。自治体の担当者からは「家庭には引き続き関わっていく。訪問してもらい、家の中の様子がよく見えた。」という言葉があり、**関係機関と協力して1つの家庭を支援**しているということを実感しました。

▶ 講演

こども家庭庁が制度を新設した（子育て世帯訪問支援事業）ことを受け、関係機関の集まる全国規模の大会に、家庭訪問型支援の実践団体を代表するような立場で講演の機会をいただきました。法人の活動内容を紹介するとともに、制度説明のような機会ともなり、経験を伝え、実践団体を増やしていく役割も増えています。

その他、企業の異業種交流会の場でも参加者の方々に高い関心をもっていただきました。

お招きいただいた
主催団体

- ・一般社団法人社会的養育地域支援ネットワーク
 - ・福井県社会的養護施設協議会
 - ・一般財団法人医療・福祉・環境・経営支援機構
- ほか



▶ 街頭活動 | 里親制度普及啓発キャンペーン「ONE LOVE」



認定NPO法人日本こども支援協会が毎年10月に実施する、全国一斉里親制度啓発キャンペーン「ONE LOVE」。バディチームは2020年から参加しており、2024年10月12日に、5回目となる街頭でのキャンペーン活動を行いました。

東京都の里親支援機関である二葉乳児院さんにもご参加をいただき、天気に恵まれた飯田橋・神楽坂で道行くみなさんにチラシやグッズを配布しました！

▶ 活動説明会

開催
実績

27回／参加64名

2024年度も月に2～3回のペースで活動説明会を開催し、参加希望者が都合の良い日時に参加できるよう、平日日中・夜間・週末に分けて実施しました。

説明会終了後に子育てパートナーの登録を希望される方は全体の約6割で、ここ数年ほぼ同様の割合で推移しています。

この説明会は子育てパートナー希望者向けではありますが、最近では児童虐待の背景など、バディチームが取り組む社会課題

そのものに関心がある参加者も増えている印象です。活動の普及・啓発のためにも、こうした方々を含め、すべての参加者に満足していただける内容にしていきたいと考えています。

また、高校生や大学生の学生さんから、卒業論文や自由研究、あるいは将来的に自分自身で同様の団体を立ち上げたいという理由でのバディチームへの取材依頼が増えてきています。未来を担う若い方々が児童虐待について理解を深め、「自分ごと」として捉えてくださることには大きな意義があり、私たちにとっても嬉しいことです。今後も、可能な限り受け入れていきたいと思っています。



▶ 渋谷のラジオ「渋谷社会部」

惜しまれながら
番組終了..



▲各回の放送はアーカイブで
すべて視聴可能です！

バディチームが月1回、「渋谷のラジオ」で担当させていただいていた番組「渋谷社会部」が、2025年3月に惜しまれながら番組終了となりました。

担当期間は5年半で、放送回数は60回以上。お招きしたゲストは約100名！

子育てパートナーさんにもたくさんご出演いただきました



◀記念すべき担当第1回 2019年10月
「子育てパートナー活動へのそれぞれの思い」
コロナ禍以前は朝8時30分から渋谷のスタジオ入りでした。



2020年7月 ▶
「学生の目に映る子育ての現在と未来」



◀2022年7月
「様々な背景をもち活躍する
子育てパートナーたち」
●乳児院・児童養護施設での
抱っこボランティアを通じて
●児童養護施設勤務と訪問型
子育て支援と

2023年2月 ▶
「みんなの健康法
～いつまでも現役で
活動を続けるために～」



当事者の方々にも



◀2023年8月
「親を頼れなかった子ども時代から・・・伝えたいこと」
認定NPO法人ブリッジフォースマイルのジュニアボード・イルミネーター、
ヨウさん・しろしさんをゲストに、子ども時代の体験談をお話いただきました。

学識者も

2024年2月 ▶
「こども大綱を機に考える戦後の子ども観・子育て観と保育実践者たちの想い」
白梅学園大学の名誉教授、松本園子先生をゲストにお招きして、
戦後の「児童憲章」の精神と先人たちの苦闘についてお話いただきました。



◀2025年3月（担当最終回）
「ありがとう渋谷社会部！
5年半のふりかえり！」



この他、子育て支援・虐待防止の領域や近しい分野で活動する
団体のみなさん、普段の活動で連携する関係機関・行政の職員
さん、里親さん、里子経験者さん…などなど。
ご出演いただいたみなさん、ありがとうございました！

ご寄付・ご支援いただいたみなさま

▶ FITチャリティ・ラン 2024

FITチャリティ・ラン（英名：Financial Industry in Tokyo For Charity Run）は、社会的な意義や必要性が十分に認知されていない非営利団体の活動を支援することを目的に、金融サービスおよび関連事業を展開する企業の有志によって2005年から運営されているチャリティイベントです。

20周年を迎えた2024年、バディチームはその支援先となる8団体のうちの1つに選ばれました。合計103社から約4,000人が参加し、8団体に合計約4,500万円が寄付されました。



▲2024年9月16日
国立競技場で開催されたランイベント

▶ ORANGE WALK 2024

ORANGE WALKは、11/1～11/30の児童虐待防止月間の期間中、歩くことで児童虐待防止に取り組む団体へ寄付を届けることができるチャリティウォークイベントです。バディチームはその寄付先となる15団体のうちの1つに選ばれ、専用のアプリを通じて参加いただいたみなさんとともに、「歩いてこども支援」の1ヶ月間を盛り上げました。

イベント全体の参加者数は過去最高の4万人を超え、合計歩数は73億歩超。国内最大の児童虐待防止アクションとなり、ご寄付への感謝はもちろんですが、多くの人に関心を寄せていただいたことが励みとなりました。



▲バディチームへのご支援の結果
エントリー数：1,430人
歩数：242,617,184歩
寄付額：270,000円

▶ 一般社団法人miraie さま



B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社の社会貢献活動の推進を目的に設立された一般社団法人miraie様からは、バディチームの居場所拠点「ぼうむ」での活動に対して、サーティワンアイスクリームのアイスクーキのご寄付をいただいています。

誕生日ケーキを用意する余裕のなかったひとり親さんとも、お子さんの成長と一緒に祝うことができました。



個人のみなさまからもご支援をいただきました



30代 女性

根本的な解決が難しい場合も多く、難易度の高い領域だと思いますが、支援を必要とされてる方々が1日1日を乗り越えていくために必要なサポートだと感じています。



70代 男性

自治体で福祉行政に携わった当時にできなかった事業を推進していると感心したのが寄付のきっかけ。難しい家庭に積極的に関わっていくアプローチに共感し、応援のエールを送らせていただきます。

「みんなで子育てする社会」へ ともに歩むチームに加わってください



参加する

活動説明会に参加する ▶



個人
の方

▶ 子育てパートナーとして活動してみませんか

様々な事情で子育てが大変なご家庭に訪問し、親子に寄り添う活動をしてくださるスタッフを「子育てパートナー」と呼んでいます。年齢・性別を問わず、学生さんから70代の方々が、ご都合に合わせてそれぞれの得意分野で活動に参加しています。資格や経験、得意分野により、複数の活動の場があります。ぜひご参加ください！

企業
の方

▶ 社内や異業種間での学習会等の場にお招きください

社内研修や企業交流イベント等にて、代表・岡田から児童虐待の課題背景やバディチームの取組みなどについてお話をさせていただきます。1人でも多くの方に知っていただくことが「みんなで子育てする社会」につながります！

自治体
の方

支援機関
の方

▶ 「制度の狭間」のケースについてご相談ください

家庭の状況は大変なのに公的支援につながらない、あるいは支援が不足しているといったご家庭へ、訪問型の支援を実施することができます。まずはお気軽にご相談ください！



支援する

▶ 月1,000円からご支援いただけます

月 1,000円 で..

子どもたちが「小さな居場所」
で手作りのあたたかい食事を
食べることができます

月 3,000円 で..

専門領域の研修を開催すること
で、より多くの家庭がより質の
高い支援を受けることが
できます

クレジットカードまたは銀行振込で
ご寄付を受け付けています。

▼お振込の場合の振込先口座
三菱UFJ銀行 広尾支店 普通 1359694
特定非営利活動法人バディチーム

▶ 遺贈寄付・相続寄付もご相談ください

▶ モノの寄付でも応援いただけます

ブックオフコーポレーション株式会社の運営する
「キモチと。」にて、モノでの寄付も受け付けています。



寄付ページ ▲

認定NPO法人であるバディチームへご寄付をいただいた
個人・法人のみなさんは、税制上の優遇措置を受けることができます。
(所得税・住民税・相続税・法人税)

税制優遇について ▶



科目		金額
Ⅰ 経常収益	受取会費	218,000
	受取寄附金	9,391,589
	受取民間助成金	16,384,000
	事業収益	63,342,404
	受取利息／雑収入	212,015
経常収益 計		89,548,008
Ⅱ 経常費用	1 事業費	
	人件費（法定福利費含む）	58,737,223
	旅費交通費	3,187,411
	通信費	2,057,536
	外注費	1,252,128
	食材料費	32,848
	リース料	183,048
	支払報酬料	6,017,216
	消耗品費	1,577,680
	会議費	65,812
	交際費	32,125
	水道光熱費	279,783
	賃借料	3,000
	地代家賃	5,287,878
	支払手数料	290,096
	租税公課	2,019,400
	研修費	12,724
	保険料	121,826
	印刷製本費	124,070
	荷造運賃	4,968
	雑費	64,440
	事業費 計	81,351,212
	2 管理費	
	人件費（法定福利費含む）	650,658
	その他経費	1,621,320
	管理費 計	2,271,978
経常費用 計		83,623,190
税引前当期正味財産増減額		5,924,818
法人税、住民税及び事業税		71,004
当期正味財産増減額		5,853,814
前期繰越正味財産額		5,888,322
次期繰越正味財産額		11,742,136

受取寄附金には、「FIT
チャリティ・ラン 2024」
「ORANGE WALK
2024」(p17参照)による
寄附金その他、「SMBCグ
ループ ライジング基金」
からの次年度事業に対する
支援金が含まれます。

受取民間助成金には、(公
財)日本財団、こどもの未
来応援基金からの助成金
他、(公財)CBGMこども財
団、(公財)東京都福祉保健
財団からの助成金のうち当
年度分が計上されています。

事業収益には主に、都内
14の自治体から受託する
要支援家庭や里親家庭むけ
の訪問型支援(p6-8参照)
の受託事業収益が計上され
ています。

管理費のその他経費には、
顧問税理士・社労士に対す
る支払報酬その他、事務所家
賃の更新料についての繰延
資産償却費などが含まれま
す。

▶ 行政との協働事業

2007年 12月	NPO法人 設立
2008年 4月	養育困難家庭におけるホームヘルプサービス 受託
2010年 4月	養育支援訪問事業 都内6区 受託
2012年 9月	東京都里親支援機関事業（育児家事援助者派遣） 受託
2017年 4月	養育支援訪問事業 都内13区 受託
2017年 7月	江戸川区「食事支援ボランティア派遣事業」（おうち食堂） 受託
2019年 4月	江戸川区「子どもと家庭のおとなりさん事業」 受託
2019年 5月	世田谷区「食の支援サポーター派遣事業」（おうちDE ぽかぽかクッキング） 受託
2020年 4月	世田谷区「里親支援のための育児家事援助者派遣事業」 受託
2020年 10月	江戸川区「さとおや・おたすけ事業」 受託
2024年 6月	新宿区「トワイライトステイ事業」 受託

▶ 民間助成金事業・表彰

2009年	全国社会福祉協議会 里親支援モデル事業
2010年	日本財団 里親家庭ファミリーサポート事業
2011年	日本財団 被災地応援子育て支援事業
2015年	厚生労働省 里親支援に求められる養育支援とその課題に関する調査研究事業
2015年	東京都福祉保健財団 養子縁組家庭の子育て支援と仕組みづくり事業
2017年	東京都福祉保健財団 社会で子育て！社会的養護が必要な子どもたちへの子育て支援事業
2020年	日本社会福祉弘済会 民間団体における養育支援訪問事業の実態調査と実践モデル作りに関する調査研究事業
2022年	日本財団 子育て家庭に対する訪問型養育支援の強化事業
2022年	NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド 里親家庭の親子を地域で支えるための保育士・教員・学童職員むけ啓発プロジェクト
2023年	社会貢献支援財団 社会貢献者表彰
2024年	日本財団 里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化事業
2024年	こどもの未来応援基金 アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業
2024年	CBGMこども財団 家庭訪問型の子どもの自立支援事業
2024年	東京都福祉保健財団 居場所型との連携による家庭訪問型食支援等の協働実践事業

▶ 団体概要

名称： 特定非営利活動法人バディチーム
 住所： 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-830
 Tel： 03-6457-5312
 Mail： honbu@buddy-team.com
 HP： <https://buddy-team.com/>
 理事長： 岡田妙子

▶ 事業内容（2024年度）

行政との協働による事業

- ▷ 困難な状況にある家庭への訪問支援事業
 - 子育て世帯訪問支援事業（養育支援訪問事業） 都内12区
 - 子どもと家庭のおとなりさん事業 江戸川区
- ▷ 食の支援事業
 - 食事支援ボランティア派遣事業（おうち食堂） 江戸川区
 - 食の支援サポーター派遣事業（おうちDEぽかぽかクッキング） 世田谷区
- ▷ 里親家庭支援事業
 - 東京都里親支援機関事業（育児家事援助者派遣） 都内7区
 - 里親支援のための育児家事援助者派遣事業 世田谷区
 - さとおや・おたすけ事業 江戸川区
- ▷ トワイライトステイ事業 新宿区

自主または民間機関との連携による事業

- ▷ 「制度の狭間」の家庭に対する訪問支援事業
 - 子育て家庭に対する訪問型養育支援の強化（3年目） (公財)日本財団
 - 里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化 (公財)日本財団
 - 家庭訪問型の子どもの自立支援 (公財)CBGMこども財団
 - 居場所型との連携による家庭訪問型食支援等の協働実践 (公財)東京都福祉保健財団
 - 個人利用家庭への訪問支援 自主事業
- ▷ アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業 こどもの未来応援基金

講演等による普及啓発活動



認定NPO法人
バディチーム



2024

Annual Report

年次報告書